

# 事業活動に伴う環境負荷のさらなる低減をめざして

富士通グループは、環境効率の高い機器の導入や、システム活用による消費電力量の見える化など、自社の事業活動においてさまざまな環境負荷の低減を推進するとともに、こうした活動をノウハウとして蓄積し、お客様にソリューションとして提供できるよう努めています。

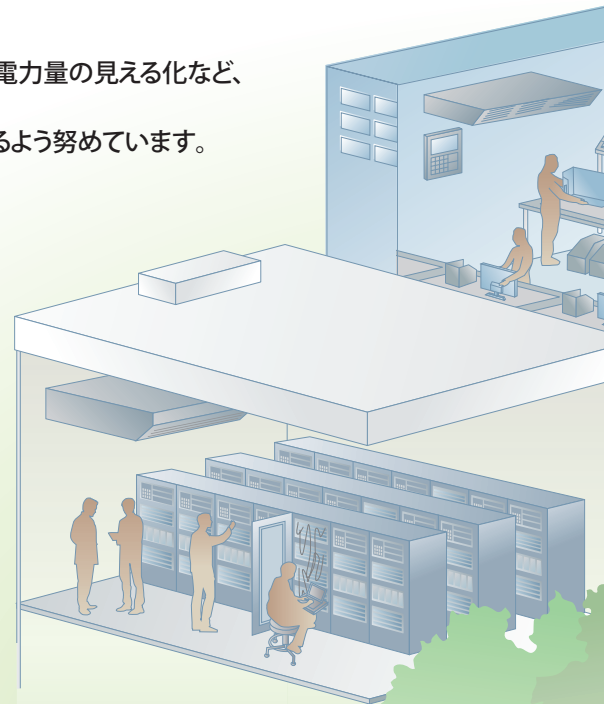
## データセンターで

- 最新鋭の環境配慮型データセンター「館林システムセンター新棟」……………▶P12参照
- 環境配慮型データセンターのグローバル展開……………▶P12参照
- 綿密な調査に基づき省エネを実現したロンドンノースデータセンター……………▶P47参照

## 開発センターのクラウド化でサーバを集約し台数を半減

富士通(株) 沼津ソフトウェア開発クラウドセンター CO<sub>2</sub>約1,340t削減

2008年度から、ソフトウェア開発者やセンターの運用者が行う作業の負荷を軽減するために、国内6拠点到分散していた開発環境のサーバを「沼津ソフトウェア開発クラウドセンター」に集約し、仮想化・標準化・自動化という3つのステップでクラウド化を進めています。これによって環境負荷低減やコスト削減を実現し、2010年度にはサーバ台数を2008年度比で約50%削減するとともに、約1,340トンのCO<sub>2</sub>排出量削減を見込んでいます。



## エネルギー消費効率の高い「ターボ冷凍機」の採用

富士通(株) 館林システムセンター

CO<sub>2</sub>約2,200t削減

ターボ冷凍機を採用したことによってエネルギー消費効率が大幅に改善し、年間約2,200トンのCO<sub>2</sub>排出量削減を実現しました。



ターボ冷凍機(イメージ)

## 「建築環境総合性能評価システム(CASBEE)」による評価を実施

富士通エフ・アイ・ピー(株) 環境に配慮した建設

富士通エフ・アイ・ピー(株)は、省エネ配慮の空調システムや雨水再利用、太陽光発電システムなどを採用した環境配慮型データセンターを構築中で、「建築環境総合性能評価システム(CASBEE)」による評価を実施<sup>※1</sup>し、従来型のデータセンターよりも高い評点を達成しています。



また富士通(株)は、(株)富士通ゼネラルが子会社(株)富士エコサイクルの新工場を建設するにあたり、高効率な照明やシックハウス対策に基づいた内装材などを採用する支援を行い、CASBEEによる評価を実施<sup>※2</sup>しています。

※1 2009年度、横浜市へ自己評価を届出。 ※2 2009年度、浜松市へ自己評価を届出。

## 「局所空調システム」の開発

富士通(株) 館林システムセンター新棟

25%の省エネ運転を実現

データセンター内の局所で発生する熱だまりに対応した局所空調システムを開発。従来の空調方式に比べ約25%の省エネルギー運転が可能です。



## ICTを活用した環境経営の高度化

WEB 環境経営情報システム

<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/management/information-sys/>

富士通グループでは、環境経営のさらなる高度化をめざして、ICTを積極的に活用しています。

### ICTの活用例

全世界の富士通グループの環境パフォーマンス情報を収集・分析環境経営統合DB「GEDS」

環境マネジメントシステムの効果的な運用環境ISO14001運用支援システム「GMS」

製品含有化学物質の管理REACH対応含有化学物質管理システム「PLEMIA/ECODUCE」

使用済みICT機器のトレーサビリティ管理リサイクル統合情報管理システム

バーチャルものづくり3次元仮想検証シミュレーター「VPS:Virtual Product Simulator」

工場での化学物質管理化学物質管理システム「FACE」

## 工場で

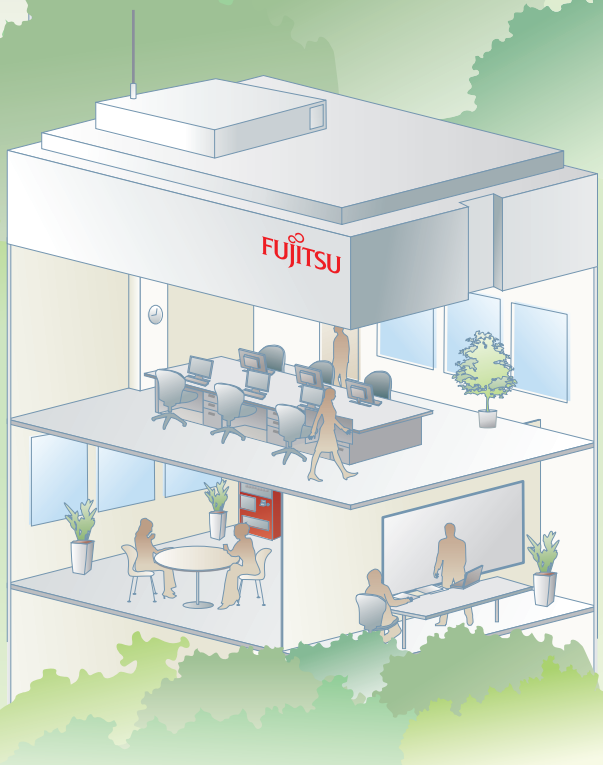
- コンプレッサーおよび空調の省エネ取り組み .....▶P68参照
- 蓄電・熱源設備の再構築によるCO<sub>2</sub>排出量の大幅削減 .....▶P68参照
- LSIパッケージ工程への空調用冷水供給の効率化 .....▶P70参照
- シリコン研磨排水処理に伴う汚泥削減 .....▶P70参照
- IPAガスの排出量削減 .....▶P71参照



## 消費電力量を見える化

富士通(株) 沼津工場、(株)PFU 省エネルギー化

富士通(株)の沼津工場では、エネルギー消費量の推移をウェブで公開したところ、消灯の推進など省エネルギー活動につながりました。また、(株)PFUでは、各フロアの電灯や空調などによる消費電力量を1時間ごとにモニターできるシステムをProDeSセンター(開発製造拠点)で運用し、省エネルギー活動に活用しています。また、コストダウンや環境負荷情報の社内開示を実現することにもなり、社内全体で環境活動を推進する足掛かりにもなりました。



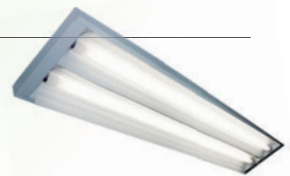
## オフィスなどで

- 全国ペーパーリサイクルシステムにより紙ごみのゼロエミッション化を実現 .....▶P72参照
- 物流におけるモーダルシフトの適用拡大によるCO<sub>2</sub>排出量削減 .....▶P74参照

## 蛍光灯の照度を上げる高効率反射板の導入

(株)PFU 省エネルギー化

ProDeSセンターの事務所で高効率反射板を導入することで、蛍光灯の数を削減するとともに、消灯による省エネルギー化を実現しています。



## 徒歩・自転車での「エコ通勤」を推進

富士通アイソテック(株) CO<sub>2</sub>約14.5t削減

2009年7月から、社員の通勤手段を自動車から徒歩・自転車、公共交通機関に切り換えるよう取り組んでいます。この活動によって2010年3月までに約14.5トンのCO<sub>2</sub>排出量が削減できました。



## CO<sub>2</sub>排出量測定・削減に関する認定を取得

Fujitsu Services Ltd. CO<sub>2</sub>1.7%削減

Fujitsu Services Ltd.は、2008年度に自社の事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を、2006年度と2007年度の平均より1.7%(1,483.7トン)削減したことから、2010年3月に、企業のCO<sub>2</sub>排出量の測定方法や削減実績を評価するCarbon Trust社の「Carbon Trust Standard」認定を受けました。



## 環境面で最高水準のオフィス環境

Fujitsu Australia Ltd. (FAL) 省資源

FALがオフィスを構えるビル「The Gauge」は、オーストラリアにおける環境ビル設計の認定で、商業分野の最高レベル「6 Star Green Star」を受けており、水のリサイクルシステムやコージェネレーションなどによる省資源・省エネ化を実現しています。

